
太白、湖中に月を掴むか

瓜畠 明

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

太白、湖中に月を掴むか

【NNコード】

N2604D

【作者名】

瓜畑 明

【あらすじ】

詩仙・李白が月を抱いて死んだといつ伝承から

(前書き)

詩仙・李白。

酒と詩に生きた天才に、ただただ敬服するのみです。

夜の闇が水面を染める。

暗き湖面に一筋の光。

それは月光。

青山に囲まれたこの湖を静寂が満たす。
時折、吹き抜ける風が木々を揺らす。

ユラユラと揺れる水面。

湖面を揺らすのは一艘の小舟。

その小舟には一人の老翁と一本の竹筒。

「ああ……」

老翁の吐息。

それはこの湖への感嘆か、それとも乱世への嘆きか。

白髪白鬚の老翁はひつそりと水面を漂つ。

どこか富貴を思わせる顔を草臥れさせ、老翁は竹筒を手に取る。

月光に弾かれる闇。

風によつて奏でられる緑木の音。

深く、そして蒼い。

「我、詩は千丈、歌は百篇詠う者なれど……」

竹筒から盃に酒を注ぎ、一杯また一杯と盃を呷る。

「我が生…、幸は非ず」

老翁が盃を運ぶ手を止め、水面に浮かぶ月に眼を移す。
湖面に映る月は何も与えず何も奪わず其処にただヒツソリとある。

「天子に召され廷にいくども、奸臣に疎まれ野に下る」

老翁の独白は続く。

一陣の風が老翁の髪を巻き上げて去つて行く。

「乱世起こり、逃げ惑い、我、山中に潜む」

何を急ぐのか？

老翁は盃を湖に投げると、竹筒に口を添える。

「人、我を嗤う。 ああ、愚かしや…」

筒中の酒も無くなつたようだ。
老翁はそつと手を膝に添える。

「酒と月」

竹筒を湖に放り投げ、コラリと櫂を動かす。

小舟はゆっくりと湖面に浮かぶ月へとその身を近づける。

「我が親友にて、我が愛すべきモノ」

月まではそつかからなかつた。

手を止め、月を望む。

「ああ……」

再び吐息。

静寂と、木音の繰り返し。

短く、長く、高く、低く。

「ああ……」

老翁が嬉しそうに微笑む。

ただ、瞳に浮かぶ表情は、悲しみ。

「円よ……」

老翁が手を伸ばす。

「 月よ…」

身を乗り出し、触れようともがく。
水面の月はコラコラと。

「 月…」

老翁は舟上から身を投げた。
ドブリと音が一つ。

そして 静寂。

静かに…。

そして、静かに…。

何事も無かったよつに月は其処に佇む。

(後書き)

時が止まつたような、静けさを感じられたら。
作者として、光栄です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2604d/>

太白、湖中に月を掴むか

2010年11月2日14時04分発行